

## 「文化芸術白書」の刊行にあたって



3年にわたるコロナ禍を乗り越え、様々な公演や展覧会、イベントが県内各地で開催されるなど、県民の文化芸術活動も活発化しており、文化芸術関係者の活動の場や県民の鑑賞の機会も多く創出されるようになりました。

さらに、今年に入り、ニューヨーク・タイムズ紙が発表した「2024年に行くべき52か所」の3番目に山口市が選出され、来年開催される大阪・関西万博や、再来年秋に本県での開催が決定しているJRのデスティネーションキャンペーンなど、国内外の方に本県の魅力を伝える絶好の機会がおとずれています。

こうした中、県では、本県文化芸術の更なる振興と地域の活性化につなげるために、文化財等の多彩な文化資源を活かした交流の拡大や文化芸術を担う人材の育成等、様々な取組を進めています。

昨年度からは、本県の多彩な文化財を新たな観光素材として磨き上げ、誘客の拡大を図る文化観光の推進や、中学校の部活動を段階的に地域に移行する部活動改革に取り組んでいます。

また、今年10月には、中四国地方の民俗芸能が集結した「第66回中国・四国ブロック民俗芸能大会」を周南市で開催し、地域間の連携や交流を深めるとともに、民俗芸能の普及・啓発に取り組みました。

一方で、少子高齢化に伴う担い手不足や、コロナ禍による人のつながりの希薄化など、文化芸術を取り巻く環境は大きく変化しているため、多様な主体と連携しながら、様々な課題を克服し、やまぐちの文化力を未来へつないでいくことが求められています。

このため、県では、山口県文化芸術振興条例に基づき、文化芸術の振興に関する基本的な指針となる「やまぐち文化芸術振興プラン」に沿って、今後も様々な取組を進めてまいります。

この白書は、山口県文化芸術振興条例に基づく年次報告書であり、令和5年度に取り組んだ施策や、令和6年度の計画等について取りまとめたものです。本書を通じて、県民の皆様は文化芸術に関する理解と関心を一層深めていただき、より多くの皆様が、魅力ある充実した文化芸術活動を楽しみ、実践されますようお願いしています。

令和6年(2024年)10月

山口県知事  
村岡 嗣政